

# 立命館大学技術士会 第12回総会

## 議 案 書

# R

令和3年(2021年) 6月26日

(一社)中央電気倶楽部 215号室

13:00 ~ 14:00

## 立命館大学技術士会第12回総会議案

### <第1号議案>

立命館大学技術士会第11期(2020年4月1日～2021年3月31日)事業報告

### <第2号議案>

立命館大学技術士会第11期決算報告および監査報告

### <第3号議案>

第12期事業計画(案)および予算(案)

### <第4号議案>

第12期役員人事:敬称略(2021年度及び2022年度)

## <第1号議案>

### 立命館大学技術士会第11期(2020年4月1日～2021年3月31日)事業報告

#### (1) 会員拡大と組織強化

当会の基盤強化として、本会員、特別会員、準会員および賛助会員合計200以上を目標としたが、第11期末では、本会員148名、準会員3名および賛助会員6社の合計157であった。

正会員において、ご高齢等に伴う退会希望者があり前期に比べて7名減となった。

今後も引き続き、第二次試験合格者の情報入手および建設会並びに建立会等のOB会に対し当会の活動情報を発信して会員拡大を図る必要がある。

また、組織の体制に関し、10期から副会長4名に①企画、②渉外、③孫口、④記録・広報の各総括責任者を担ってもらい、活動・運用しているところであるが、その状況も浸透・機能してきた。

また、第9期から参加した「大学技術士会連絡協議会」であるが、2021年1月30日、東京理科大学神楽坂キャンパス(森戸記念館)をメインハブとして総会が開催された。新型コロナウイルスの再拡大で11都道府県緊急事態宣言下であったことから、初めてインターネット上のオンライン形式で開催されたが、当会は同形式にて2名参加した。

#### (2) 技術士試験受験への支援

令和2年度技術士第二次試験受験支援は、2020年3月7日に1回目の受験ガイダンスを行ったが、その後の受験ガイダンス(4月4日)、及び受験講習会(5月9日、6月13日)は、新型コロナ感染拡大防止の観点および関係者の安全確保に鑑み、中止した。そのため受講者7名に対しては、担当講師を選任してメールでの指導方法に切り替え指導した。その後、翌年1月8日に発表された筆記試験の合格者2名に対し、口頭模擬試験を1月23日、同月30日に実施して2名とも合格に導くことが出来た。

なお、合格者の部門は、機械部門および建設部門(河川、砂防)の各1名である。

R3年度の技術士第二次試験受験支援は、2021年3月6日に1回目の受験ガイダンスを行い、受講者(申込者5名の内、2名参加)に対し、WEB併用にて技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)、受験申込書、業務経歴、詳述論文等について個別指導した。

#### (3) 立命館大学への支援

大学の環境・都市系学科の授業を活用し、後進者である学生達に技術士の立場で支援を行った。

① 環境都市工学科1回生を対象にコロナ禍のなか、6月1日WEB授業で実施された。当会としては、4名の幹事役員により、『めざせ！技術士』(～様々な分野の先輩技術士から～)と題し、技術士試験制度の説明はじめ、公務員、建設コンサルタント、ゼネコンの技術士からのアドバイスとして講義資料の作成にあたった。1回生の学生達にとって今後、技術者としての倫理観の醸成やキャリアアップの一助になったと大学からもお礼の言葉をいただいた。

② 当会では昨年同様、環境都市工学科3回生を対象に、「技術者のキャリア形成」に向けた講義を『第12回立命技術士懇談会』として行う予定をしていたが、今年は授業枠の問題もあり、担当教授と院生での対応で済ますとの連絡が入った。また、来年度に依頼があれば支援を考える。

③ 前期講義の「環境地盤工学」担当教授が体調不良につき、当会へ外部講師の依頼が入ったため、会員の中から推薦し、コロナ禍のなか、4回のWEB授業を担当していただき好評の内に完了している。

また、大学事務室から「技術者のキャリア」講義の外部講師を依頼され、幹事会社から1名推薦し、令和3年1月8日に講義は完了している。

#### **(4) 技術講演会および親睦会**

当会員の資質向上の一環として、総会時に特別講演を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から総会のみ開催し、講演会及び交流懇親会は中止とした。議案は全て可決した。

また、恒例の交流懇親会は、11月14日に中央電気倶楽部にて開催し、その折に2つの講演を開催した。講演の一つ目は、小澤特許事務所の小澤壯夫弁理士に「知っておきたい知的財産権」と題し、主に特許権について、どういう権利なのか、なぜ与えられるのか、技術専門家ならば常識と認識しておくべき事項についてご説明いただいた。二つ目の講演は、本学理工学部建築都市デザイン学科の福山智子准教授に、「鉄筋コンクリート構造物の耐久性に関する研究」と題し、高度経済成長期に建てられた鉄筋コンクリート構造物の経年劣化が問題となっている中、その耐久性や劣化診断技術に関して、実験的な検討や軍艦島などの実構造物調査結果に基づき、その研究成果をご説明していただいた。

なお、総会及び講演後、中央電気倶楽部にて新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底したうえで、交流懇親会を行った。

また、交流懇親会費からの一部を、本学の未来人財育成基金に寄付した。

#### **(5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上**

当会創設時に発行していた会報を、会員相互の更なる充実した活動の促進を目的に2017年10月に復活させた。第11期の会報誌は、2020年11月に第4号をホームページ上で発刊し、巻頭を除く12編(自由テーマ10編、技術レポート2編)が掲載された。今後も引き続き、会員の日頃の科学技術に係る研究成果や技術報告をはじめ、自由闊達なご意見や近況報告について投稿をお願いして、会員相互のコミュニケーションツールとして活用していただくことを希望する。

また、2期にわたり準備してきた『技術士会員名簿』であるが、ようやく昨年の12月に編集を終え、1月に会員等に郵送した。



#### **(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進**

過去に、① 技術士受験支援基金、② 各種講演会・交流企画基金、③ 大学支援・共同企画基金を設け、将来的に各事業企画の有効な実施が図れるよう備えている。

本基金の趣旨は上記に記すところであるが、過去に阪神・淡路大震災発生後、あらゆる組織の活動が長期にわたり機能停止に追い込まれた苦い経験等を踏まえ、来る南海トラフ地震をはじめ、この度の新型コロナウイルス感染症等の疫病を含む複合災害等を見据え、有事の折には本基金が当会の活動継続に有効に活用できるものと考え、広範かつ柔軟な活動基金として、この第11期は積み立てを行った。

<第2号議案>

立命館大学技術士会第11期決算報告および監査報告  
(2020年4月1日～2021年3月31日)

項目	予 算	決 算	摘 要
<b>(1) 収入</b>			
①会費等収入	180,000	205,000	個人会費
	60,000	130,000	賛助会費
	100,000	70,867	その他(お祝い+寄付等)
②講習会収入	10,000	3,000	講習会参加費
③未来人財育成基金	30,000	-	交流懇親会にて
④その他	1,167	-	ゆうちょ銀行利息、その他
今期計		408,867	
⑤前期繰越金	118,833	118,833	前期残高合計
合計	500,000	527,700	
<b>(2) 支出</b>			
①会員技術研修等支援活動費	120,000	126,369	
②大学教育支援活動費	60,000	-	
③技術士試験受験支援活動費	100,000	76,760	52,760(会場費等)+24,000(支援活動費)
④その他活動費	30,000	93,058	69,158(会員名簿作成等)+23,900(集音マイク機材)
未来人財育成基金	-	-	23,000(未来人財育成基金→交流懇親会参加費より)
⑤通信事務費	50,000	58,314	
⑥会費振込手数料	12,000	10,982	
上記計	372,000	365,483	
⑦大学支援・共同企画基金	100,000	100,000	
⑧予備費	28,000	-	
今期計	500,000	465,483	
	収入額	527,700	
	支出額	465,483	
収支合計＝		62,217	・・・次期繰り越し金額
<b>監 査 報 告</b>			
立命館大学技術士会第11期会計内容につき、通帳、金銭出納簿、領収証および入金書類を監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。			
令和 3年 5月 10日	立命館大学技術士会		
	会計監事	山下 雅巳	
	会計監事	兼塚 卓也	

積立基金会計（ゆうちょ銀行）

預金名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年利率	%
定額貯金① 受験支援基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	27-03-30	¥150,000	27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	28-03-29	¥100,000	28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	29-03-30	¥100,000	29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	3-03-30	¥100,000	3-09-30	0.002	
合 計		¥750,000			

\* 定額貯金の利率は3年以上預けた場合の年利率である。

また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。

## ＜第3号議案＞

### 第12期事業計画(案)および予算(案)

#### ＜事業計画(案)＞

##### (1) 会員拡大と組織強化

当会の組織を強化するために、正会員及び準会員、並びに賛助会員について、会員の拡大を引き続き行い、更なる基盤強化を図る。今期は、建設会会員名簿を基本に、個人情報保護に配慮しつつ、会員資格を有する方々を洗い出し、本会の活動主旨に賛同してくださる方々への勧誘を積極的に行う。

正会員の高齢化が進む最中、当面、正会員の新規加入数を5名と設定して、地道に会員の拡大を図ることを目標とする。

第10期の役員幹事の増員により、事務局の役割を4つ(①企画、②渉外、③窓口、④広報・企画)に区分し、4人の副会長を総括責任者に配置して幹事もそれぞれに配属した。その結果、事務局の機能が有効に稼働し、相互の連携も向上してきた。今期もその体制で活動したいと考える。

また、「大学技術士会連絡協議会」については、同様の課題や問題点を抱えている会も多いことから、そのネットワークを活用し、相互に情報交換する場である年次総会に参加する予定である。

##### (2) 技術士試験受験への支援

昨年度同様、既に開催した第1回受験ガイダンスに続き、4月3日に2回目の受験ガイダンスを実施した。その後、5月8日および6月12日の受験講習会は、新型コロナの緊急事態宣言下であったため、受講者および関係者の健康、安全面を第一に考慮して中止とし、4月末以降は専任講師を配置してメール等での受験指導に変更した。また、毎年7月に実施される第二次試験であるが、昨年度は9月に延期されたが、今年度は予定通り7月に行われる予定である。そのため模擬口頭試験は11月13日に予定している。

##### (3) 立命館大学への支援

昨年に引き続き、環境都市工学科1回生を対象に6月5日BKCにて『めざせ！技術士』と題し、技術士資格の説明会を実施する。また、当会幹事の技術士(公務員、建設コンサルタント、ゼネコン)が、講師として講義資料を作成し、WEB授業の対応を行う。1回生の学生にとって今後、技術者としての技術士受験の心構えや倫理観の醸成、キャリアアップの一助になるものと期待できる。

また、昨年度は実施出来なかった環境都市工学科3回生への『第12回立命技術士懇談会』は、7月15日、当会幹事を中心に各業界の技術士の職務と役割について、対面授業及びZoom配信のハイブリッド講義で対応される予定である。なお、両講義共(公社)日本技術士会近畿本部および立命館大学建設会の後援をいただき、実施する。

さらに今年度から、環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に2名、授業担当講師として講義を受け持つことが決まっており、年々当会への相談事や講師派遣依頼が増えて、その存在価値は高まってきている。

##### (4) 技術講演会および親睦会

総会時には、本学の先生および異分野を含む外部の講師を招いて特別講演を企画するが、開催は新型コロナ感染対策状況を見据えて柔軟的な対応を考える。

また、毎年11月に実施している交流・懇親会は、中央電気倶楽部にて11月13日を予定しているが、基本的に会員相互の幅広い交流を念頭に企画し、展開していくことを考える。

##### (5) 会員相互の親睦と技術レベルの向上

会員相互のコミュニケーションツールとして発刊している会報を今年も11月頃の発行を予定し、会員当会ホームページにて、その投稿を広く募集する。また、今年3月には出版プロジェクト委員会を立ち上げ、2015年7月に出版した電子書籍『土木、この素敵な世界』に続いて、第二弾の出版を企画している。現在、会のホームページにて『土木技術者が語る未来 ～今、伝えておきたい技術者の心～』の執筆者を募集しており、原稿締め切りについては9月末を予定している。多くの投稿をお願いしたい。

##### (6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

本基金は、受験支援、講演交流、大学支援をはじめ、最近では来る南海トラフ地震をはじめ、この度の新型コロナ感染症等の疫病を含む複合災害などの有事の折に、当会の活動基金として有効に活用できるよう積み立てている。会員の高齢化が進み、かつ多くの新規入会者が見込めない現状において仮に2年～3年間、会費納入が見込めない状況下でも、当会の機能が停止することなく活動できるようその積み立ては、もう少し必要であると考えている。

< 予 算(案) >

① 収 入

(1) 会費等	本・特別・準会員	200,000	
	賛助会員	60,000	
	その他(お祝い+寄付等)	130,000	
(2) 講習会等		15,000	
(3) 未来人財育成基金		30,000	交流懇親会参加費より
(4) その他		2,783	
(5) 前期繰越金		62,217	
合 計		500,000	

② 支 出

(1) 会員技術研修等支援活動費		160,000	
(2) 大学教育支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		40,000	1,500円/人*20 含む
(3) 技術士試験受験支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)		130,000	1,000円/人*50 含む
(4) その他活動費(未来人財育成基金等)		30,000	
(5) 通信事務費		50,000	
(6) 会費振込手数料		12,000	
上 記 計		422,000	
(7) 大学支援・共同企画基金(3活動基金)		50,000	
(8) 予備費		28,000	
合 計		500,000	

積 立 基 金 会 計 ( ゆ う ち ょ 銀 行 )

預 金 名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利 率	%
定額貯金① 受験支援基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金② 講演交流基金	26-03-27	¥150,000	26-09-27	0.04	
定額貯金③ 大学支援基金	27-03-30	¥150,000	27-09-30	0.04	
定額貯金④ 3活動基金	28-03-29	¥100,000	28-09-29	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	29-03-30	¥100,000	29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	3-03-30	¥100,000	3-09-30	0.002	
定額貯金⑦ 3活動基金	4-03-30	¥50,000	4-09-30	0.002	
合 計		¥800,000			

\* 定額貯金⑦が第12期の基金予定額である。

\* 定額貯金の利率は3年以上預けた場合の年利率である。

また満期時は10年経過となり、通常口座に振り替えられる予定です。



<第4号議案>

第12期役員人事：敬称略(2021年度及び2022年度)

役職名	氏名 (敬称略)	卒業年	部門
会長 (1名)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
副会長 (6名程度)	楠本 博 留任	S 54	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道、建設
	橋口 正悟 留任	H 15院	建設
幹事 (30名以内)	土屋 光弘 留任	S 58	建設
	西村 敏 留任	S 54	上下水道
	楠本 博 留任	S 54	建設
	日室 伸一 留任	S 54	上下水道、建設
	沢田 道彦 留任	S 54	建設
	吉田 順一郎 留任	S 55	建設
	久後 雅治 留任	S 57	建設
	野村 嘉樹 留任	S 60	上下水道
	中井 稔 留任	H 02	建設
	星野 和之 留任	H 03	建設
	青山 裕之 留任	H 05	建設
	太田 和夫 留任	H 05	建設
	深津 真彦 留任	H 07院	建設
	今井 豊 留任	H 08	上下水道
	北岸 真佳 留任	H 12	上下水道
	春田 健作 留任	H 12院	建設
	菊池 博之 留任	H 12院	機械
	今道 洋 留任	H 13院	上下水道
	長谷川 真也 留任	H 13	建設
	北口 和雅 留任	H 13	上下水道
玉木 政人 留任	H 13	建設	
橋口 正悟 留任	H 15院	建設	
人羅 真一 留任	H 16	建設	
服部 亘啓 留任	H 17院	建設	
幹事長	西村 敏 留任	S 54	上下水道
監事 (2名)	山下 雅巳 留任	S 53	建設
	兼塚 卓也 留任	S 57	建設

幹事および監事、以外の役員

役職名	氏名 (敬称略)	摘要
顧問	山田 淳 田中 伊三雄 糸田川 廣志	
相談役	奥村 一之 大田 淳順 岸田 邊三夫 渡邊 郁夫 大森 秀高	